

- ・積雪寒冷な気候に対応するため、戦後早期から、断熱や気密の技術開発に取り組む。
- ・1988年から、産学官が一体となって、北海道の気候風土に適した「北方型住宅」を開発・普及。

1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

省エネ基準 1980 新省エネ基準 1992 次世代省エネ基準 1999 改正省エネ基準 2013 建築物省エネ法 2015

- ▶ 充填断熱
- ▶ アルミサッシの普及

▶ 樹脂サッシの普及

▶ 基礎断熱工法

- ▶ スカート断熱、付加断熱
- ▶ パッシブ換気、床下暖房

▶ 計画換気、全室暖房

7,300ℓ

50mm断熱

4,500ℓ

100mm
(気密化)

1,500ℓ

150mm
(高気密化)

1,200ℓ

200mm
(高気密化)

970ℓ

800ℓ



ブロック造住宅

北方型住宅

北方型住宅
[2005年基準]

北方型住宅ECO
[2010年基準]

北方型住宅2020
[2020年基準]

<年間の暖房用灯油消費量>
札幌、全館暖房、設定室温20℃
の場合の推計値

高気密・高断熱化を目指した北方型住宅の開発・普及
▶▶暖房用灯油使用量を大幅に削減

防寒住宅

寒地住宅

北方型住宅

認定制度

登録・保管制度

<北方型住宅基準>

▶4つの基本性能

▶3つのしくみ

▶BIS認定制度



▶サポートシステム



きた住まいる制度

- ・高断熱、高气密化によって、吹き抜けなどの開放的な空間が実現(設計の自由度が向上)。
- ・温度むらが小さくなり、快適な空間を実現。

1 住宅の性能向上と
施工技術の向上



2 快適・安心な
空間の実現



北海道らしい
豊かな住まい

1 住宅の性能向上と施工技術の向上

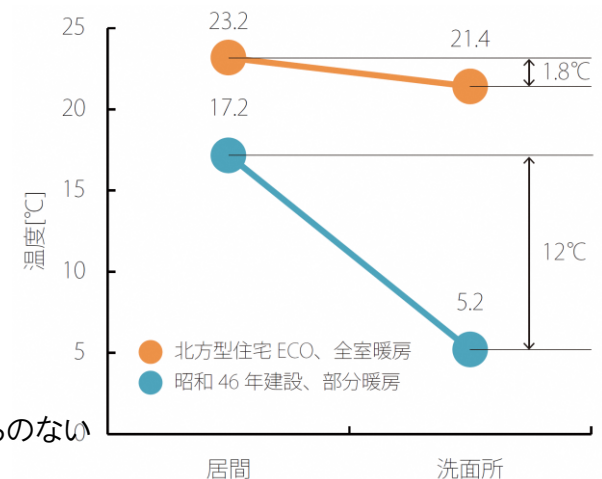
- ①断熱住宅から高断熱高气密住宅へ
- ②一次エネルギー消費量とCO₂排出量の削減へ
- ③気密性能の向上や基礎断熱工法などによる高耐久な住宅へ



間仕切壁のない開放的な空間、
道産木材活用で、ぬくもりのある空間を実現

2 快適・安心な空間の実現

- ①自由な設計による開放的な空間
- ②温度むらのない、健康で快適な空間
- ③高齢者等に配慮した、誰でも安心して生活できる空間
- ④道産材の活用で、ぬくもりのある空間



- ・北方型住宅は、北海道が普及推進する住宅のブランド。
- ・高い品質の確保と北海道らしい豊かな住まいづくりに向け、**北方型住宅基準**を設定。

北方型住宅の理念

北海道の気候風土に根ざした質の高い住宅の推進

- ・北海道にふさわしい豊かな住まい、住まいづくりの実現
- ・寒さを防ぐ技術のみならず、暮らしや住まい方にも配慮しながら、良好な社会資産の形成と北国らしい生活文化の確立を目指す

北方型住宅基準

4つの基本性能



①長寿命



②安心・健康



③環境との共生



④地域らしさ

性能の違いによる
北方型住宅の3つのグレード



北方型住宅
2005



北方型住宅
ECO
2010



北方型住宅
2020

品質の確保・適切な維持保全

3つのしくみ



①専門技術者の関与
BIS資格者による設計・施工



②住宅性能の見える化
住宅取得者へ
住宅ラベリングシートを交付



③住宅履歴情報の保管
新築時の住宅の記録を「きた住
まいるサポートシステム」に保管

きた住まいる制度



システムでできること

- ・きた住まいるメンバー(BIS資格者等)の情報を公開
- ・住宅ラベリングシートの作成、発行
- ・新築時の図面や工事写真、修繕履歴等の保管
- ・北方型住宅基準への適合をチェック